

隔月刊 **ジャズ批評** since 1967 2018/1

JAZZ CRITIQUE MAGAZINE

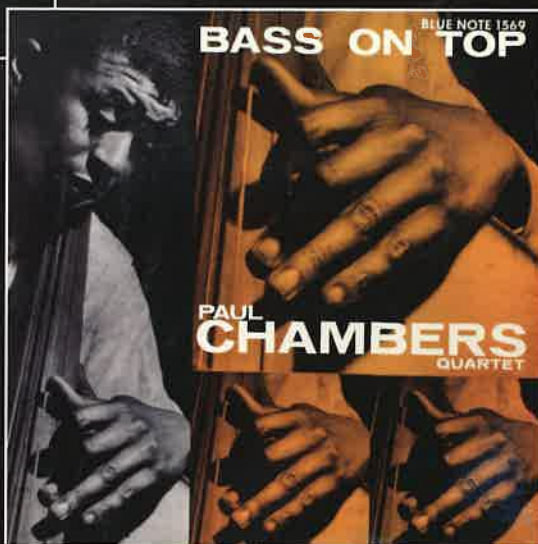
特集 **ジャズ・ギター&ジャズ・ベース**

ギターとベースの名盤を合わせて110枚掲載!!

映画『永遠のジャンゴ』エチエンヌ・コマル監督インタビュー

Full House **Wes Montgomery**

recorded 'live' at Tsubo -
Berkeley, California



ブラジリアン・ジャズの“ライジング・スター”が
比類ない歌い手として解き放つ佳曲の数々に圧倒される

エスペランサ/ 伊東友子

FUNNY BABY FACE RECORD (FBFR1703)



①Vera Cruz ②Moon River ③Só Danço Samba ④Manhã De Carnaval ⑤
Owari No Nai Kisetsu 終わりのない季節 ⑥Madalena ⑦Começar De Novo
⑧Ponta De Areia ⑨Stolen Water ⑩Vivência/Obsession ⑪Tsubasa Wo
Kudasai 翼をください ⑫What A Wonderful World ⑬Esperança

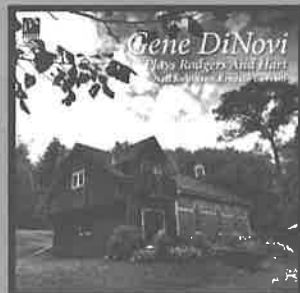
伊東友子(vo, comp, arr), Helio Alves(p), Edward Perez(b), Alexandre Kautz
(ds, perc), Richard E Miller(g), Oriente Lopez(fl), 福森道華(p, arr), Romero
Lubambo(g, perc, vo), Luisa Lubambo(vo)

90年代半ばからNYを拠点に活動し、04年ごろからブラジリアン・ジャズを体現する伊東友子。このサード・アルバムでは、MPB、スタンダード、和声ポップス(!)や自身のオリジナルから成る13曲を素材に、ホルトガル語、英語、日本語を混在させ違和感なく歌う比類ないボーダーレスぶりを見せつける。エリオ・アルヴィス(p)トリオを軸に、一部で参加するスティーヴ・キューンの直弟子、福森道華(p)らが構築するグルーヴィーなボサ・ジャズ風サウンドともベストマッチ。(茂木 亮)

清澄なカナダの空気をロジャー・ハートの名曲に込めて…
ジャズ・ピアノの詩人の入魂のパフォーマンス!

プレイズ・ロジャース・アンド・ハート/ ジーン・ディノヴィ

マッシュマロエクスポート (MMEX161)



①Little Girl Blue ②My Funny Valentine ③I Didn't Know What Time It Was ④
Johnny One Note ⑤Wait Till You See Her ⑥Thou Swell ⑦Bewitched ⑧
Spring Is Here ⑨Have You Met Miss Jones ⑩This Can't Be Love ⑪Fall In
Love With Love ⑫It Never Entered My Mind

Gene DiNovi(p), Neil Swainson(b), Ernesto Cervini(ds)

【ライナーノーツより】「リチャード・ロジャースとロレンツ・ハートの名コンビの代表作の数々をスローテンポを主体に取り上げた本作品は、日本制作の作品としては極めて異例といえるかもしれぬ。しかしこの横ましい企画を、ディノヴィとスウェインソン、チェルヴィーニ3人の知性派トリオで収録した後、大きな喜びと達成感を感じた。(中略) さて今年(2014年) 86本の年輪を刻んだ名ピアニスト、ジーン・ディノヴィ。彼に弾かれて(惹かれて…?) もらうスタジオのスタインウェイの名器も、どこかしら嬉しそうに聴こえる。年輪を重ねるたびにピアニストとして日々成長を続けるディノヴィに立ち止まる時間は当分来そうもない。ジーン・ディノヴィ、彼はジャズ界の宝である。」(上三雄)

オスメ旧譜 Pick Up